

## 施設整備の考え方（案）

## 1 基本的な整備水準を確保する

学校施設は、学校教育活動を行うための基本的な要素の一つであるとともに、市立小中学校においては、定められた区域への通学が基本となることから、原則として、すべての児童・生徒が、時代の趨勢にあった環境で等しく教育を受けることができるよう、基本的な整備水準を確保して、学校施設の整備を実施します。

## 2 安全性を確保する

学校施設は、児童・生徒の学習・生活の場であると同時に、災害時における地域の避難所としての役割等も担っており、施設・設備の老朽化対策や安全性確保を最優先に考えます。

人命等に関わる支障への対応や、学校運営上不可欠な修繕・工事等は優先して実施

## 施設の長寿命化

施設の老朽化への対応について、従来の「改築」を中心とする考え方から、適切な維持・保全を行うことで学校施設の延命を図る「長寿命化」へと転換し、建物の目標使用年数を定めて、統廃合の見通し等に留意しながら適切な時期に適切な内容の保全や老朽化対策等を実施します。

なお、構造躯体が健全でない建物については、統廃合の見通し等に留意しながら、「改築」の検討を行います。

## 長寿命化可否の判断

新耐震基準  
の建物

## 旧耐震基準（昭和56年5月31日以前）の建物

- ・コンクリート圧縮強度
  - ・コンクリート中性化深さ
- 等  
構造躯体の健全性を把握

構造躯体  
が健全

構造躯体が  
健全でない

## 長寿命化検討

- ①建物の「目標使用年数」を定める。
- ②「目標使用年数」まで長寿命化させるために必要な、改修等の時期と内容を決定する。

- 大規模改造（建物内外部・屋上・各種設備・給食室等の改修）
- 外壁改修 ○各種設備改修 ○トイレ改修（衛生環境改善等）等

- ③改修を行う施設の優先順位を決定する。

## 改築等検討

- ①改築を行う施設について、整備内容・水準・規模等を決定する。
- ②改築の是非や、改築を行う施設の優先順位を決定する。

費用対効果や実現可能性等をふまえながら、  
改修や改築等に反映する。

## 3 多様なニーズへの対応を図る

これからの時代に適した学校施設環境を整えるため、費用対効果や実現可能性、整備のタイミング等をふまえながら、多様なニーズに対応するための施設整備を検討します。

## &lt;防災・防犯機能の強化&gt;

- 防犯カメラの整備
- 防災無線の整備
- 防災備蓄倉庫の整備
- 蛇口付受水槽の整備
- 防災対応トイレの整備
- 災害時の生活用水確保のための井戸整備
- 大容量バッテリーの整備

## &lt;学習環境の向上&gt;

- 教室環境の改善（床・壁・天井・照明の改修 等）
- ICT環境整備（コンピュータ室整備、Wi-Fi環境整備、タブレット 等）
- 多目的スペース整備
- ランチ用スペース整備
- キャリア・カウンセリングルーム整備
- 可動間仕切り等による小空間整備
- 図書室への自習スペース整備

## &lt;生活環境の向上&gt;

- 教室環境の改善（ロッカーの改修 等）
- トイレ改修（洋式化 等）
- バリアフリー化（EV、スロープ整備 等）
- エアコンの整備
- エコ改修（ひさし設置、断熱性向上、通風の改善 等）
- 太陽光発電設備の整備

## &lt;地域とともにある学校施設づくり&gt;

- 放課後事業専用スペース整備（子どもルームの学校内設置、放課後子ども教室専用スペース整備 等）
- 他の公共施設との複合化（公民館・図書館・高齢者施設・子育て関連施設等との複合化 等）
- 地域活動の拠点確保